

# ドナウ通信



2006(平成18)年・春季号



April							May							June							
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	
						1	1	2	3	4	5	6							1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	
<sup>23</sup> / <sub>30</sub>	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30					

**Cover Illustration Copyright © 2006 by Inner Design Bt, Budapest**  
**Photo copyright © 2006 by Tamás Kármán**  
**Edited by Tsuneo Morita**  
**Published by Japanese Community in Hungary**

# 目次

運動部発足のお知らせ	飯尾 欽哉	1
ゴルフ部からのお知らせ	野村 尚史	2
テニス部からのお知らせ	小山 和夫	3
釣り部発足しました	関本 正	5
ランニング部からのお知らせ	盛田 常夫	7
TICOM大会参加感想記		
初めてのマラソン大会	山下 芽惟	9
一〇年振りのレース	木村 晶子	10
満喫したTICOMレース	菅野 修	11
TICOMレースに参加して	吉井 一寛	13
随想		
ありがとうハンガリー	竹内 勝則	15

創作 第四話 ド・チンピラ

岩井 孝博 17

日本人学校

入学式を終えて

校長 三代 喜則 21

門出の言葉

六年 堀川 智生 22

六年 島戸 美月 23

みどりの丘日本語補習校

一年を振り返って

運営委員長 杉本 康志 25

日本人学校児童作文

なぜ絵の苦手な子ができるのか

補習校顧問 小松 慶子 34

## 運動部発足のお知らせ

運動部長 飯尾 欽哉

事務局より二月に配布したご案内の通り、今年度より日本人会運動部が発足しました。現在、テニス部、ランニング部、ゴルフ部、釣り部の四部ですが、早速多くの方から問い合わせや入部が相次いでいます。当地に來られたばかりの方、そろそろマンネリとを感じる方、もうこちらに長年お住まいの方、老若男女を問いません。私たちと一緒にハンガリーでの滞在をより一層エンジョイしてみませんか。新しい部を作ろうというアイディアも歓迎します。

### テニス部

長く寒かった冬がようやく終わり、春の訪れとともにアウトドアでの熾烈な(?)戦いが始まっています。部員の都合と力量に合わせて夫々テ

ニスを楽しんでいます。帰国・帰任に伴う送別会での盛り上がりも大変なものがありました(テニスの腕前より酒量を誇る変な人もいたりして・・)。

### ランニング部

四月八日の T-COM ブダペストで今年の本格的な活動が始まりました。以降、駅伝やら、ハーフマラソンやら目白押し of スケジュール。多くのランニングファンの入部をお待ちします。(本人が照れるので書きませんが)「鉄人現る!」。トライアスロンをこよなく愛し「もう歳だから無理が利かんよ」なんていつている有力メンバ―も入部し、今年の駅伝大会では上位入賞を狙ってみますか。

### ゴルフ部

新旧交代があったものの、四月一日現在での部員数は六〇人を超えました。三月二十八日には心配してい

た雪も解け、今年第一回目の月例会を無事終了。四月一六日は第二回月例会、四月三〇日にワールドカップ(欧州選抜・韓国・日本他)、五月上旬からは今年七回目となるマツチブレ―選手権、六月一日にはオーストリア・チェコ・スロバキア・ハンガリーの四カ国対抗戦(第二回ジェトロカップ)がブダペストで開催されるなど、一一月の積雪までスケジュールが一杯詰まっています。

### 釣り部

「何を釣るんだよ?」との問い合わせ。何か勘違いしてないか? 魚に決まっている。ピクニック気分で家族と一緒に、どこそこの池で鯉釣りなんていうのも悪くない。海外遠征もあり。「釣り人は三倍までの嘘なら許される」というのは釣り上げた魚の話。実のところ、釣り人は正直者が多くて困ることが多いのです。ただいま部員の募集中。

## ゴルフ部からのお知らせ

野村 尚史

二〇〇六年度の年間予定を以下お知らせします。初心者から上級者まで多数のゴルフ・ファンの入部、並びに大会への参加を募ります。二月現在の部員数は男女あわせて約四五名です。

ゴルフ部に関するお問合せ等はマネージャーである 石原 壮 (TEL: 〇六・三〇・二三〇・二〇九八) 迄。

### (1) 月例会

日程変更あり次第、別途ご案内します。

三月二十六日(日) PANNONIA  
九:〇〇 ティーオフ  
四月一六日(日) PANNONIA  
八:三〇 ティーオフ  
五月二一日(日) TATA  
八:三〇 ティーオフ

六月一八日(日) PANNONIA

八:三〇 ティーオフ

七月一六日(日) TATA

八:三〇 ティーオフ

八月二七日(日) PANNONIA

八:三〇 ティーオフ

九月一〇日(日) TATA

八:三〇 ティーオフ

一〇月八日(日) PANNONIA

八:三〇 ティーオフ

十一月五日(日) PANNONIA

九:〇〇 ティーオフ

### (2) 第二回 JETRO カップ、四

カ国対抗戦

五月下旬あるいは六月上旬に PANNONIAにて開催予定

### (3) 第三回 欧州、米国、韓国、

日本選抜四カ国対抗

七月中旬 PANNONIA

### (4) 第七回 マッチプレー選手権

五月上旬から三ヶ月かけての勝

抜き戦 PANNONIA、TATA 他



## テニス部からのお知らせ

小山 和夫

どんよりと閉ざされた空も去り、たつぷりと光を蓄え放射し始める季節となりました。この春はすぐに夏を引きつれ、しばし忘れかけた躍動感を呼び覚ます事になるのです。

この芽吹きの子節到来の中で、私たちは日本人会テニス部として新たなスタートを切る事になりました。

ただ好きだ、というだけで集まったプレーヤー達。時を繋ぎ、人を繋ぎ、いつしか形成された歴史有る三つのチームがそれぞれに集合し、今、日本人会テニス部として結束いたします。

顔ぶれは二〇代から六〇代の方まで様々。アーサーアッシュを知る世代の方や、テニス全盛のマッケンロー、コナーズ世代、そしてシャラポワの美貌に魅せられたプレーヤー達等、動機は様々、そして陣容は幅広くなっております。

バブル崩壊で激減した日本のテニス人口は、シャラポワ効果もありじりじりと持ち直し、現在アメリカにツイード第二位。およそ一千万人のテニスプレーヤー達が限られた日本のコートで奪い合っていると聞き及んでおります。

一方、当地ハンガリーではあちこちにテニスコートを見かけ気軽にプレーでき、設備はまちまちなれどオールシーズン対応のドーム型コート

が利用可能となる等、日本で一月前によく抽選でコートを取り、一面に一〇人以上の詰め込みレッスンに押し込まれ、時にはビルの屋上で四方八方ネットに覆われた、鳥かごコート、使用を余儀なくされる状況からすると格段に優れた環境と言えるでしょう。

古くはエジプト時代に起源を持つテニス。様々な状況で集まった私たちがこの古のスポーツを通じ、ハンガリーという異国の地での一期一会を共感できれば幸いです。沢山の方々のご参加をお待ちしております。

詳細お問い合わせは小山までご連絡下さい。

[k.koyama@ned.de](mailto:k.koyama@ned.de)

## テニスグループ紹介

### グループ A

幹事	杉本 康志
部員数	一三名
活動日	毎週土曜日の午後
時間	一五：〇〇～一八：〇〇（夏季、屋外） 一四：〇〇～一七：〇〇（冬季、屋内）
場所	Varosmajori Tennis Academia
形式（試合等）	ダブルス & 練習
コート数	二面（クレークコート）
年間行事	三月或いは四月（予定）：ブダペストオープン 四月中旬 → 九月：屋外テニス、一〇月 → 四月中旬：屋内テニス 冬：Szepvolgy チームとの対抗戦（時期未確定）
P R	身体にやさしいクレークコート。 試合も大事ですがスキルアップも重視（練習用コートも確保） コート外での楽しい交流（新年会、忘年会、歓送迎会など頻繁）
	<沿革> 九〇年代：ハンガリー駐在日本人が初級～中級者を中心に発足。 二〇〇一年：活動時間を二時間から三時間へ。 二〇〇三年一〇月：B E S テニスクラブから Varosmajori へ移動

### グループ B

幹事	村上氏（一年交代の輪番制）
部員数	約一五名
活動日、時間	毎週日曜日の午前中 九：〇〇～一一：〇〇（夏季/屋外、冬季/屋内）
場所	Varosmajori Tennis Academia
形式（試合等）	ダブルス
コート数	二面
年間行事	春、秋に一回ずつ納会を実施。メンバーの要望に合わせて飲み会を実施。夏はテニス終了後に、コート脇カフェで一杯飲みながらの懇談もあり
P R	和気藹々を合い言葉に肩肘の凝らないテニスを実施中。でもプレー中に足をつったり、転んで頭を切ったりしないため準備運動はしっかりやるようにしています。
その他	初心者の方、女性の方、大歓迎。

### グループ C

幹事	茂木 昌
部員数	七名程度
活動日、時間	毎週日曜日の午後 一七：〇〇～一九：〇〇（夏季、冬季）
場所	Szepvolgy Tennis Center
形式（試合等）	ダブルス
コート数	一面
年間行事	特になし。異動による退会時などに総当りデスマッチ及びお別れ会。
	常に上を目指して、切磋琢磨しています。実際のレベルはともかく、本格テニスを標榜。時には厳しい指導（？）があったり、緊張感のある試合をしています。シングルスもやります。

## 釣り部発足しました

関本 正

今年二月中旬のある晩、某日本レストランで同僚とお酒を呑んでいたところ、お店のオーナーから「関本ちゃん、今度運動部の中に釣り部を作るんだけどさあ、代表やってくれないかなあ」とお話があり、おいしい食事で満腹となり、かつ、しっかりと酔っていた私は、多少の逡巡はありましたが、最後には、撒き餌によせられ針のついた餌に食いついた魚の如く、絶妙なタイミングで話を持ち出す腕利きのオーナーに見事釣り上げられてしまいました。

振り返りますと、釣りを始めてからかれこれ二八年となります。岸壁の海釣りから入門し、海の投げ釣り、川のフナ・コイ釣り、溪流での餌釣りを経て、溪流の毛鉤釣り(フライフイッシング)に辿り着いたのが二五

年前で、それ以来毛鉤釣り専門で釣りを続けております。

ハンガリーに赴任したのは六年前ですが、その間、毛鉤釣りをするために、最初は五里霧中の中、兎も角、色々なところに行って見て、釣り場情報・ライセンス情報収集をやってきました。今般、日本人会運動部の下に「釣り部」が出来ましたので、有志の皆様とそうした情報を共有しながら楽しい釣りが出来ればと思っております。

### 釣りは、退屈？

日本人の方だけではないのですが、ご趣味は？と聞かれて「釣りです」と答えると、大体様に「結構な趣味ですね。のんびり出来ますしね」という反応が返って来ます。ただ、その際、「一日座って退屈だろうな」という表情が見えるのも事実です(人により他の反応もありますが、大多数はこれです)。

釣りと言いで括つてもその中身は千差万別で、身を隠しながら溪流を絶えず遡る鱒釣り、パイク・バスを歩きながら釣るルアー釣り、ボートでのトローリング、豪快な海の磯釣りと激しい動きのある釣りもございませぬ。また、コイ・(ヘラ)ブナ釣りの様に、一件一日座っている様に見える釣りでも、ウキ、糸、水面の変化に目を凝らし、魚が餌を咥えた瞬間を捉えるには集中力とセンスが必要です。やり方によって釣りは退屈になるかも知れません。でも釣りは決して退屈なものではなく、本当はエキサイティングな趣味だと思っております。

### 爆釣(バクチョウ)の湖

ハンガリー駐在は、日本に居ない魚を釣るチャンスです。オーストリア・スロバキアの山へ行けば、アルプス・イワナ、グレーリング、ハンガリーの河川・湖ではドイツ・コイ、

パイク、パーチ、パイク・パーチ、巨大ナマズが貴方を待っております。サイズも日本のものより大きく、釣り方も日本のものとは多少違うようです。

私の専門は毛鉤釣りですが、昨年・一昨年とオーストリアにある標高一〇〇〇B以上のとある山上湖にハンガリー在住の日本人の方と釣りに行く機会がありました。標高二〇〇B以上の山に囲まれ、緑の牧場には牛が草を食んでいるという心洗われる場所で、規則で釣り方は毛鉤釣り限定という場所でした。

一緒に行った方は、毛鉤釣りは全くの素人だったのですが、簡単なレッスンの後、ボートに乗り釣って頂いたところ、水面に浮かぶ毛鉤に水の底からアルプス・イワナが猛烈にアタックをかけて来て、入れ食いとなり、毛鉤釣りを堪能して頂く事が出来ました。で、付いた名前が「爆釣(バクチョウ)の湖」という次第で

す。因みに、先生の私が一番大きな魚(イワナ)を釣ったのは言うまでもありません。

### 色々な釣り人求む

世間と魚から身を隠す溪流の毛鉤釣りをやってきたため、私の場合、釣りに行くのはいつも一人です(家内も家において出かけます)。ですから、何人かのグループで釣りに行くというのはなかなか勝手がわかりません。今回、釣り部の取り纏めをさせて頂く事になりましたが、正直申し上げて色々な釣りをやっている方々の参加を得て、その皆さんと楽しく話し合いながら釣行計画を練って行きたく思っております。有志の皆さんの広い参加をお願いしたく思っております。宜しくお願い致します。

尚、活動計画は漠然と下記を考えっております。他、アイディアあれば大歓迎ですのでご連絡お願い致します。

す。

六〇九月・Etrachsee(爆釣の湖)でのアルプス・イワナ、虹鱒釣り(土日一泊、月一回程度)

只今部員を募集中です。関本(Tel: 〇六・三三〇・九六六・八三一八)までお問合せ、ご照会下さい。



## ランニング部からのお知らせ

盛田 常夫

今年、ブダペストで予定されている大会をお知らせします。ランニング部ではリレー競技を中心にチームを組み、大会に出場する予定ですが、個人競技への参加もまとめて申し込み手続きをします。

### 大会申し込み

大会参加希望者はどの大会の、どの種目に参加を希望するかを明記して、氏名、住所、生年月日を、[morita@tateyama.hu](mailto:morita@tateyama.hu) までお知らせください。各大会の参加費は異なります。国際マラソン、国際ハーフマラソンの個人、リレー競技の参加費は三〇〇〇・五〇〇〇Ftですが、その他の個人競技の参加費は一五〇〇〇・二〇〇〇Ftです。申し込みが遅くなると参加費が高くなるようになります。

ています。なお、参加費を支払った時点で大会にシャツとゼッケンが渡され、競技のゴール地点では飲料セツトが提供されます。大会終了後、競技結果を収めたパンフレットが自宅に送付されます。

### 種目別予定

#### 一・リレー種目（男女別）

五月二〇日  
リブレッセ女子（一・五 km x 3）  
市民公園一四：〇〇出発

六月 四日  
K&H マラソンリレー（七 km x 6）、ハーフマラソンリレー（七 km x 3）  
国会前一：〇〇出発 全員が国会周辺を一周

九月 三日

国際ハーフマラソンリレー（一三 km + 八 km）  
英雄広場一〇時出発

一〇月 一日  
国際マラソンリレー（一二 km x 七 km x 八 km x 六 km x 八 km）  
英雄広場出発

一〇月 五日

コカコーラ女子一〇 km（四・七 km + 五・三 km）  
マルギット島

#### 二・個人種目（女子個人のみ）

五月二〇日  
リブレッセ女子（二種目 三・八 km、六・五 km）  
一〇月 五日  
コカコーラ女子（二種目 三・六 km、一〇 km）

### 三・一般長距離（男女別個人）

四月 八日

T・Com ブダペスト（三種目三・六

km、六・五km、一二km）

六月一日

ブダペスト一〇km（五kmも）

一〇：〇〇、一一：〇〇

ヘリアホテル下の沿岸道路出発

### 四・国際マラソン、ハーフマラソン（男女別個人）

九月 三日

NIKE ブダペスト国際ハーフマラソン

一〇：〇〇英雄広場出発

一〇月一日

PLUSZ ブダペスト国際マラソン

一〇：〇〇英雄広場出発

一〇月二二日

ウィーン・ブダペスト・ウルトラマ

ラソン最終日

国際ハーフマラソン大会（ブダペ  
スイ・英雄広場）一〇時出発

参考：五月七日 ウィーン国際マラ  
ソン・ハーフマラソン大会

#### 参加者へのアドバイス

ハンガリーには長距離選手が数え  
るほどしかいませんので、レース参  
加者のほとんどは、ホビーで走って  
いる人です。初めて長距離を走る人  
も多いのが、ハンガリーの大会の特  
徴です。今回のT・COMの各レース  
では、それぞれ四千人近い参加者が  
いましたが、その九割はホビーで走  
る人です。

本ちゃんのランニング選手は最前  
列から出発します。国際大会は別で  
すが、ふつうの大会では女子で五〇  
一〇名、男子で一五名程度が本ちゃ  
んの選手で、残りは皆ホビーで走る  
参加者です。もともと、女子は本ち

ゃん選手でもレベルは低く、今回の  
T・COM一〇・五kmレースの私の  
記録（四四分一九秒）は、女子の六  
位と同タイムでした。数名いるプロ  
的な選手は国際大会に出ているので、  
普段の大会には若い選手が数名出場  
しているだけです。

もう一つの特徴は、いろいろなス  
ポーツをやっている選手たちが、体  
力増強の一環として、各種のマラソ  
ン大会に参加しています。屈強な体  
の持ち主が、かなりのスピードで走  
っています。ここが日本の参加者と  
違うところです。

今年から、国際大会以外でも、チ  
ップ計測が導入されます。個人チッ  
プ（イエローチップ）は七千円まで  
購入でき、個人チップの所有者には  
参加費の割引があります。このチッ  
プは日本を含め、世界中で通用する  
個人チップです。プラハ、あるいは  
ウィーンの各大会の個人記録の計測  
にも使うことができます。

## T-COM大会参加感想記

### 初めてのマラソン大会

山下 芽惟

わたしは、ハンガリーへ来てから、初めてマラソン大会に出場しました。小学2年生の時から、市の駅伝大会に友人と参加していました。でも今年ハンガリーへ来たので、出場する事ができずに残念でした。私は走りができなかったで、いろんな人に聞いて探してもらいましたが見つかりませんでした。その時は、走る事をあきらめかけていました。

二月、わたしは家族で大吉に夕飯を食べに行きました。大吉は混んでいたのですが、カウンターの席で食べる事になりました。父と母が大将といろいろな話をしていました。その時「ハンガリーに陸上部みたいな、走るク

ラブは無いですか？」と母が聞きました。そこで大将が、「今年から日本人会にジョギング部ができた」と教えてくれ、盛田さんを紹介してくれました。私はハンガリーでまた走れると思うと、嬉しくてたまりませんでした。

二月下旬、いよいよジョギング部初めての練習です。盛田さんとジムで走る事になりました。久しぶりに走るのでワクワクしました。三〇分間ゆっくり走りました。走ってみると、とっても楽しかったです。そんなに長い時間走った事が無かったので疲れましたが嬉しい気持ちがたくさんでした。

それからランニングマシンと新しいシューズを買ってもらい家でトレーニングする事にしました。目標は「毎日4キロ走る事」です。父がスケジュールを作ってくれました。でも、疲れていたり習い事があつたりして毎日走る事はできませんで

た。走っていると、きつくて、つらくて、やめたいと思った事が何度もあります。四月になりあんなに大変だった4キロがスムーズに走れるようになったのです。



そして四月八日 とうとうハンガリーで初めてのマラソン大会です。会場に着いてみると、すごく大勢の人がいてびっくりしました。まるでお祭りみたいと思いました。私が走る3キロは一六時からスタートでした。その中には小さい子供やおじいさんおばあさん ベビーカーを押したお母さんなどいろいろな人たちが参加していました。

いよいよスタートです。スタート位置についてからスタートするまでがとても長く感じました。すこしでも前に行きたいと思い、少し早く走りました。でも母からは、「前半はゆっくり走った方がいいよ」と言われていました。その時は前に行きたい気持ちがいっぱいでした。後半は疲れて苦しかったけど、歩かず同じペースで頑張りました。ゴールの近くで、母の姿が見えました。ついにゴールしました。タイムは一四分三二秒。思ったより早く走る

ことができました。つらい練習でしたが、最後は良い記録が出ました。次はもう少しトレーニングをして長い距離を走れるようにになりたいです。

### 一〇年振りのレース

木村 晶子

四月八日、土曜日。前日までの肌寒さとは違って変わって暖かい日差しの中、T・C・O・Mのレースが開催されました。ハンガリーで大会に出場するのは、これが初めて。レースの会場となった英雄広場の市民公園はまさにお祭り騒ぎで、レース参加者が思いのほか多かつたのにも驚きました。

さてレースのほうですが、当初前半はゆっくり、余力があれば後半でがんばろうと思っていたのですが、距離が3キロと短いことと、一〇数

年ぶりのレースにワクワクしていた気持ちの後押しし、初めから少しとばしていききました。1キロを過ぎたあたりからペースが落ち着き、残り2キロを走りました。日頃のトレーニングは週に一回ジムに通い、他に時間があれば週一回ジョギングをする程度で練習と呼べるような練習は出来ていませんでしたが、まずまずのタイムで気持ちよく走れたことはとても良かったと思います。

ゴール手前での主人と息子の応援も励みになりました。それから走っている最中に驚いたことですが、多くのハンガリー人がコースをショートカットして走っていました。日本ではあまり見られない光景だと思えます。今年度これからの大会参加にあたっての目標は「無理せず楽しんで走ること」です。

## 満喫したT・C・O・Mレース

菅野 修

四月八日のT・C・O・Mレースのご案内をいただいたとき、一つだけ引っ掛かることがありました。それは、三月末に会社で献血を行うことになっていて、血が減った状態で走れるかということでした。

エリートランナーの中には、レースの何ヶ月か前に自分の血を抜いて保存しておく、レース日直前にその血を戻す人があると聞いたことがあります、また、ランナー用の雑誌等にもランナーは赤身の肉魚を食べるように書いてありますから、ランニングにとって酸素運搬の担い手として血液とくにヘモグロビンが重要であるとの認識を持っていました。事実、昨年献血した三日後に練習した際、1キロも行かないうちに息があがったことを経験しました。

少し脱線しますが、日本とハンガリーの献血にはいくつか異なった点があります。一つは、献血の際の採血量で、日本だと二百ccか四百ccですが、こちらでは四五〇ccです。体の大きなハンガリー人なら良いでしょうが、小柄な日本人にとっては大した量です。もう一つの違いは、採血後に日本だと二百ccのジュースがもらえる程度ですが、ハンガリーでは、1リットルのジュース、ウイナ三本、パン食べ放題、更にサラミかチョコレートのお土産選択と非常に豪華です。これなら、四五〇ccの採血に充分おつりがきます。そのような訳で、献血の後はレースまでの日々、鉄分をとることに心がけました。といっても、肉を毎日食べる歳でもないのです、鉄分の多いとされる法蓮草のお浸しを毎日作り、また毎晩赤ワインを普段の倍の量飲むようにしました。

本題に戻りますと、当レースは当

初ドナウ川の中洲マルギット島周囲で行われる予定でしたが、ドナウの水嵩が例年以上高くなったためコースと距離の変更があり、英雄広場裏の公園で一〇・五km、六km、三kmのレースとなりました。今回は、会社から仲間三人と六kmの部に参加しました。

簡単にメンバーを紹介しますと、日本から出張で来ている山口、島津両君、彼らは中学・高校時代には陸上部でならしたようです、それとホン君、彼は中学時代母国ベトナムではテニスで全国3位となったスポーツマン。しかし、いずれも現在は運動不足やタバコを吸うなどで、シリアスランナーとしてではなく、完走を目的として参加しました。六kmの部のスタートは三時でしたが、一時には会場の公園に入り、アップというよりも会場内をブラブラしました。会場内は、Tモバイルカラーであるピンクに統一され、またピンク

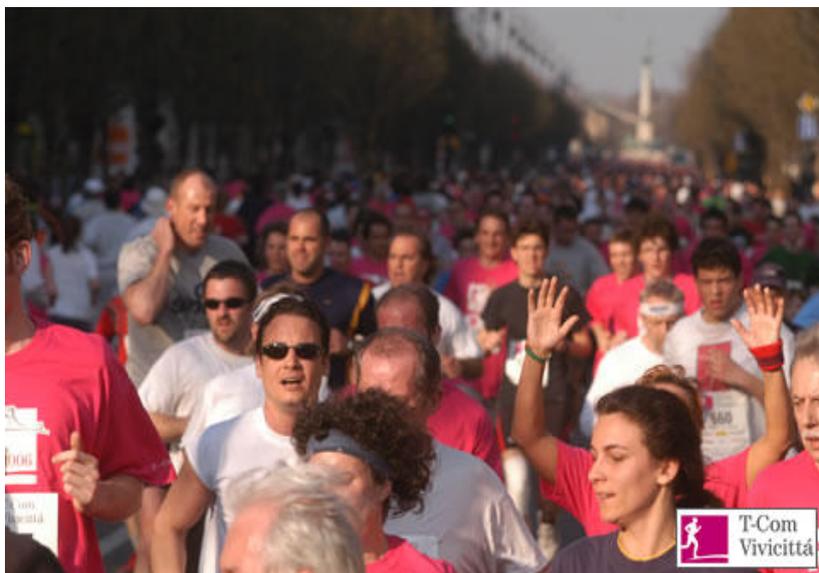
地の参加Tシャツを着た人も多く、華やいだ雰囲気でした。歩いていると東洋人ということで珍しいのか、TVカメラで撮られたり、雑誌のインタビューがあつたりで、時間は早く過ぎてゆき、それとともにスタート前の緊張が高まってきました。いよいよ、法蓮草と赤ワインの効果が試される時です。

二時四五分に招集がかかり、スタートラインに並びました。例のピンク地のTシャツを着た参加者たちがまだ続々と集まってきました。参加者の年齢は、小学生くらいから六〇歳代と思われる人まで広く、また六kmは手頃な距離でもあるため女性もかなり目立ちました。コース右手のステージでは、バンドがサンバの曲を賑やかに演奏し、参加者たちは、リズムに合わせて体を動かしています。こちらはそんなに器用に動く体ではないので、手拍子だけの参加です。そうこうしている内に三時が近

づき、キレンツ、ニヨルツ、...のカウンタダウン後スタートしました。コースは公園の中ということもあり走りやすく、また盛田さんから前半はユックリとのアドヴァイスがあり（残念ながら後半もユックリでしたが）、楽に走れました。他のメンバーも、無事完走できました。過去の栄光とのギャップに発奮しこれからの練習を誓ったものや、初体験で病み付きとなったものまでそれぞれにとつて意義のあるレースとなりました。

私は、帰りにデアーク・テール乗換えで改札を忘れ、西駅で2、500 Ftとられるというおまけ付きでしたが、楽しい一日でした。

仲間とケチケチメートに戻り、やつと赤ワインからも解放され、心行くまでビールを飲み、レースの話しに華を咲かせました。



アンドラーシ通りを埋め尽くす参加者

## F-COM マラソンに参加して

吉井 一寛

昨年九月にハンガリーへ赴任してきました。外ではスポーツを楽しむ人々が一杯です。特に自転車でツーリングを楽しむ人が多いのに感じました。ハンガリーの道は狭く、自転車の後ろに付くと対向車が来た場合センターラインをオーバーしないと自転車を追い抜けません。車は対向車が過ぎるのをジット待ち、ウイinkerを出して自転車を追い抜いていきます。運転者が自転車に乗る人を尊敬しているのでしょいか？

私も日本で自転車にてツーリングをする機会がありました。クラクションを鳴らされ、幅寄せにて危ない経験をしました。

元々、体を動かすのが好きな方でしたが、若い時の無理がたたったのか、右膝に水が溜まり、最近運動

ができない状態が続いていました。しかし、せっかくヨーロッパにきたのだからマラソン大会に出場してみようと心機一転決意を新にし、訓練を開始することにしました。フィットネスジムのトレッドミルにてウォーキングを開始、マシーンを使ってスクワットやレッグエクステンションにて膝の筋肉をつけることに。

そんな折、日本人会会報「ドナウ通信」で運動分科会発足のニュース。見ればランニング部も発足した様子。早速、盛田代表幹事に連絡を取り「F-COM」マラソンに出場することになりました。レースナンバーを大吉で受領。参加費用は一七〇〇Ft、安い！日本では一七〇〇円でも参加できません（ちなみに胸につけるレースナンバーをゼッケンと呼ぶのは日本だけです。レースナンバーと呼ぶのが世界の常識です）

大会は四月八日（土曜日）。丁度ドナウ川が氾濫しており、当初マルギ

ット島にて開催される予定が英雄広場に変更になりました

午後三時に六kmの部がスタートとのことでこの時間に会場に到着。会場周辺には「F-COM」のピンクTシャツを着た選手、スタッフが沢山いて、大賑わい。スタートライン地点にて見学しているとピストルの合図で一斉にスタート。どの大会でも先頭を争う選手はスタートと同時に猛烈ダッシュです。その後ファンランの選手が続きます。このファンラン選手の陽気なこと。日本ではあまり見られない光景でした。

その後、大会開催側と選手の間から大会会場周辺を見学しました。日本では大会開催側や審判として大会に参加することが多くヨーロッパの大会運営を勉強する意味もあります。大会本部、選手受付、荷物預かり、着替え場所の確保など充実していました。選手の動線もしっかり確保されていました。特に選手のフ

イニッシュ後の動線とスタッフ確保が重要です。トイレが二箇所準備されていましたが本部に近い場所のトイレが長い列なのにスタート地点のトイレは開き状態でした。トイレのセッティング位置の検討要でしょうか？大会当日の受付もあつた様です。ハンガリー語だったため良く理解できませんでしたが。当日大会参加OKの場合、選手にかける保険の問題があります。当日では保険会社が難色を示します。どうされているのか教えてもらいたいですね。

全ての表示がハンガリー語のため読めません。英語表記もほしいところです、そういえば我々が日本で運営する大会も英語表記はしています。これでは海外の選手に参加してもらえないと反省しかりです。

四時に3kmがスタートしました。6kmよりも多くのファンラン選手が参加、お祭り騒ぎでした。スタートから最終選手がスタートライン

を越えるのに凡そ七、八分かかっていました。トップ選手は三分/kmで走るので九分で帰ってきます。最終選手がスタートする前にトップ選手が帰ってくるのでは？と他人事ながら心配していましたが、なんとかクリアしました。もう少し参加選手が多くなるとトップが最後尾の選手がスタートする前にトップ選手が帰ってきてしまいます。

五時に私が参加した一〇・五kmがスタート。スタートラインは選手みずから設定した時間位置に集合します。これは日本と同じ。一時間のところにいると後ろにも多くの人があります。遅くても良いのです。楽しむのが目的だから。日本の一〇kmマラソンでは一時間が最後尾ですが、なにか騒がしくなったと思ったらスタートの様子です。しばらくして選手が動き出してスタートラインを越えたのが三分経過後でした。今大会は計測用のチップがなく記録は自

分で計測します。このへんものんびりムードの大会でした。

スタートは六分/kmで痛む膝を騙し騙し走りましたが、凡そ五kmで痛みがなくなってきました。スピードアップで五分/kmへ。最終ゲートでは大時計が六〇分を表示していました。今回の大会では記録はどうでも良く、一〇・五kmが完走できたことに感謝です。大会終了後二週間が経ちましたが、足の膝の痛みもひどくならず、今後もマラソン大会に出れそうです。ブタペストの街の真ん中を走りたいですね。

マラソン大会は普段歩けない町のだ真ん中を走れるのが魅力の一つです。主催者は行政、警察、消防と折衝し大会を組織し、ボランティアの確保にも苦労します。そんな見地から大会を見ると楽しみが倍増します。みなさん、折角のチャンスです。ヨーロッパのマラソン大会にてRunしませんか？

## 随想

ありがとう、ハンガリー

竹内 勝則

三月一杯で任期が終わり、四月に日本へ帰国することとなりました。二年前に来た早々自動車事故を起こして天使に助けられて始まったハンガリーでの単身生活でした。

その後シェーンブルン宮殿の庭でリスと挨拶したり、弁当を持ち歩く生活を始めるなど色々なことを体験しました。何とかハンガリーの天使へ感謝の気持ちを表したいという強い気持ちで投稿し、それを採用していただいたことで、文章を書く面白さに気付いたことも新しい自分を発見した気がします。

二十年ほど前に二年弱台湾で生活しましたが、単身での赴任は今回が

初めてでした。

海外での車の運転も、自分の食事を自分で作るということも初めてでした。最初は何事にもとまどい、あたふたおろおろしたのですが、三ヶ月も経つと度胸が据わってくるものです。

ハンガリーの天使の件があつてから、どんな事でも良いほうに考えて日々を過ごしていくようになりました。体験することはたくさんあつて、その都度驚いたり呆れたりしますが、それは文化や歴史や習慣の違いによるもので、良い悪いとか正しい間違つていくということではなく、ただ自分の考え方や行動と違うだけだと思ふことにしています。

そういう目でハンガリー人を見れば、素晴らしい人達が居ます。今回は一緒に仕事をした仲間達の中でつきあいの深かったハンガリー人のことを書きます。おそらく皆さんの近くにも居られると思います。

一人はPさん、もう一人はBさんです。

我社は電子部品の製造をしており、Pさんは製造課長をしています。身長一八〇cm 体重七〇Kg 程度のやせ型の真面目なタイプの男性です。彼は製造課長の何たるかをよく理解し、現場現物現実を実践しており、よく現場で彼を見かけます。

5S活動の意味・意義などもよく理解し、現場の整理・整頓も彼の指導宜しきにあずかるところ大なるものがありました。彼とコンビを組むことで多くの改善を進めることが出来ました。改善や変更をするに当たって、その真意はどこにあるのか、何故それが必要なかを問い、自ら納得した後部下に伝えます。

その効果の報告について、どのような指標を使いどんな算出をするかを尋ねてきます。自分が十分に理解していないことは、判らないから教えて欲しいと率直に助言や指示を求

めてきます。上長の考えを正しく把握し、その実践と報告に際してハウツーを確実にしておくという意識と行動は見事なものです。

私の拙い知識や経験そして英語力にも関わらず、何とか任務を全うできたのは、彼の存在に負うところ大なるものがありました。

もう一人のBさんは根っからの技術屋さんです。身長一九〇cm 体重八〇kg ぐらいのがつしり型の男性です。技術と設備にかけては判らないものは無いとみんなからも頼りにされている人です。

原理・原則から現象を捉えようとする人で、この人も現場現物現実を大事にします。物作りをしていると何かしら問題は発生します。品質問題だったり、設備の磨耗や故障だったり、いろいろ起きます。現場で手に負えないと彼のところに集まってくる。

彼はデータと現象とをよく把握し、

現実を確認しに出向きます。彼の存在はみんなに大きな安心を与えています。

Pさんにしても、Bさんにしても、様々な問題に対して明確なソリューションを提示できるというところが素晴らしいところです。ソリューションを搜しだし、納得し、それを指示という形で提示することが最も大切なことであることを理解しているのです。この二人と仕事が出来たことを嬉しく思います。

私は毎朝従業員とにこっと笑顔で挨拶するだけで、全く会話が出来なまま二年間を過ごしたものの、みんなの協力を得られたことは彼らのお陰です。得難い環境の中で仕事をするのができて幸せでした。

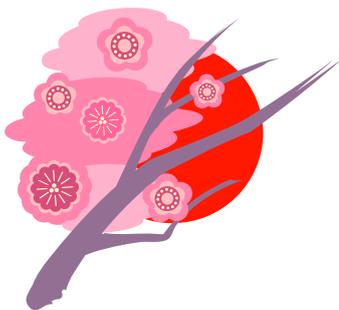
ハンガリー人の中には、二人のようでない人達が居ることも確かです。所謂ホーレンソー(報告・連絡・相談)の出来ない人、言われたことしかやらない人、しなかったことを他人の

せいにしてくどくどと言いつける人、指示されたことをすぐに忘れてやらない人、こんな人達が多い中で貴重な人々と出遭うことができて良かった。

私は思う。人生の面白さは、人と出遭うことにあると。信頼できる二人と出遭えたことで、私のハンガリー滞在は意義の深いものとなりました。

ハンガリーがEUの一員として更なる発展をすることを願い、筆をおきます。

ありがとう、ハンガリー。



第四話

ド・チンピラ

岩井 孝博

トトンコ・トン・トトンコ・トン・  
 シャンシャン・トコトコシャン・ト  
 コトン  
 エー、毎度取り止めの無い話にお  
 付き合いを頂き、誠に有り難う御座  
 います。

木に止まっていたすずめが鉄砲で  
 撃たれた、だが落ちてこない、なぜ  
 だ：・なんて聞くと、答えが根性のあ  
 るすずめだから、なんてね、おかし  
 なことに、少しだけうなずいてしま  
 う所が又、なんとも可笑しい。  
 すずめの根性の次がカエル、ド根  
 性ガエルなんて漫画がありました、  
 どうして、なかなかかなんです。

ま、根性といえばなんとと言っても、  
 スポーツもの、巨人の星、柔道一直  
 線、アタックナンバーワン、こうし  
 た系統の話を俗にはスポコンなんて  
 いわれます。

斜めに構えて、今時ハヤラネー  
 だよ、なんて言わず、真っ直ぐに見  
 てますと、まったく熱くなります。  
 ただ、いけない根性もありまして、  
 何でも御注進の岡ツ引き根性、ま、  
 今風に言うると、いい子ぶりっ子のチ  
 クリ屋って事になりますか、ヤキモ  
 チ半分のスパイ根性、でしょう。嫌  
 ですねまったく。

人の機嫌を取るのが上手で、只で  
 飲み食いする太鼓持ちをタカリ根性  
 とでもいいますか、これも端から見  
 てますとまったく情けないもんです。  
 隙有らば他人の物をひよいと掠め  
 取るコソドロ根性。  
 いつ何を盗られるかと思うと、油  
 断も隙もあったもんじゃやない、こう  
 いうトボケた人とは付き合いたくは

ないもんです。

とはいえ、寂しい時には誰でもい  
 いから話し相手が欲しくなるもんで  
 して、人には強気な事を言いながら  
 も、自分の寂しさにはなかなか勝て  
 ない、寂しさってエーものはまった  
 く手強い。

尽くしに尽くし、身を粉にして働  
 いた挙句に、子ができないという事  
 で嫁ぎ先から出されたチヨコ坊です  
 が、どっか焼けんなってガム公の案  
 内で、グミ助と三人、ヨーロッパ旅  
 行へいったんですが、旅行中は何が  
 あっても、どことなくいいなって気  
 もしてましたが、日本へ帰ってしば  
 らくしますと、やっぱりこのオー、  
 あつちとこつちじゃどっか違うんじ  
 やないかって気がしてきます。

ガム公はそのまま仕事で日本には  
 帰ってこないし、どこにいるのかも  
 知らないもんですから、奥歯に物が  
 挟まったようで、気になっても聞く  
 相手が居ない。桜三月花見時とはい

え、こうなりますってエーと、寂しさが募って膨らみ落ち着もなくなってくるもんで、チョコ坊も耐えられなくなつて、グミ助の破れ長屋に遊びに来ました。

グミ助はグミ助で、溜息かなんかついてドナウ、セーヌかテムズ川、やっぱり桜は日本に限る。なんて言いながらシト息ついていてる。

「なにしょぼくれてんよ、花見に行こうよ」

「平和だな、相変わらずよ。おめエと花見したシにヤ、こっちの身がもたねーヨ、でエいち、なんだってそんなに鼻息があれーんだ」

「あら、御挨拶ね、何もあたしや取って食オつてんじやないんだから、今さつきゲーシヤ見てきたけど、腹がたつてしょうがないんだから」

「なんでゲーシヤ見て腹が立つんだい。綺麗でウツトリすりやアいいじゃねエか」

「バカ、映画だよ、映画見たんだ

よ」

「なんだ、だったら俺も見てしまった」

「ジャ話しは早い、この話イ肴に、行こう花見、ネーッテバア」

「そうクネツとすんなよオ、チョコ坊、たまアにこうやって遊びに来てるから、寂しさもまぎれ、いようなもんだが、シトリでいた日ニヤ死にそうだよ。ガム兄イは行方不明、隣じや出世したかして仕事だツつて、これも外国に行っちまうしよ」

「フーン、この際思い切りさ、パ一ツと行こう、花見じやないの」

「その花見だよ、桜が可哀想だとは思わねエかい」

「なんでさ・・・」

「罪じやねエか」

「なにが可哀想で、なにが罪なのさ、グミちゃん、あんた何考えてんのよ」

「まだ解らねエかなア」

「解らないじやないか、それだけじゃ、もう言つとくれよ」

「ジャ言うが、怒んなよ、桜がクスムってこつたよ」

「ま、グミちゃん外国行ったら上手なッたね。ドキドキしちゃうじやないか」

「なんだいなんだい、ガム兄イとお医者さんごっこしたって言つてポツとしといて、今度はドキドキか、お前エの実家は材木屋か」

「あら、どうして分んの」

「キが多いからよ」

とか何とか、褒めてるんだかオチヨくつてるんだか分からん事を言つてる所に、ボロ長屋の大家が息せき切つてグミ助を呼んでいます。

「おおいグミ、げエ国から電話だ」

「電話だつて、どツからだ」グミ助が怒鳴りました。

「アッテネー」

「会つてねーものが分かるか、馬

鹿 大 家

言いながらグミ助も大家の電話に走って行きます。

「おおいグミ公、こっちだ」

「こっちだって、電話あっちだろ」

「ここだここ」

「なんだ、線が切れてるじゃねえか」

「ワイヤレスだからはなツからねーんだよ」

「話、できるのかア」

「電話代かかるから、とにかく早く出る」

「もしも、あ、ガム兄イ、今ドツからだい、な、なんだって、金がなくとも仕事があればどこへでも行くって、どっからだい」

《アテネ》

「アテネって、ギリシヤのか、で、何かアツテネノカ」

《何もねエが、そっちじゃ俺を探せんだろが、俺からは電話できるじゃねエか》

「嬉しいな、丁度チョコ坊が来る、電話代高けエーから、こっちらかけなおそうか」

「気にすんな」

「そっちこそ気にしなくっていいよ、どうせ大家の電話だから・・・」

《バカヤロウ、まだそんな見でいやがる。グミ、そう言うのをな、コソ泥根性ってんだ。で、チョコ坊、元気かい》

電話でまでドヤサれたもんですから、いかにもゲンナリです。

「・・・い、今代わる」

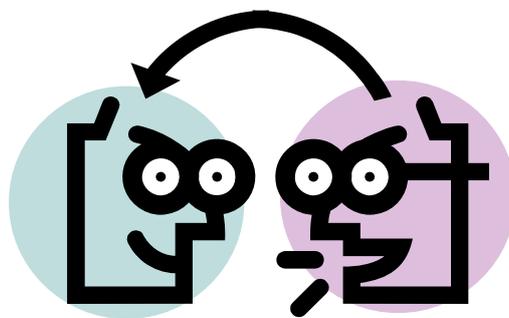
「あらガムちゃん、どうしたのさ、その後、熟んだ物が落ちたでもないし、心配してんだから」

《そうかい、心ペエしてくれるシトがいるってのは、有り難てエな》

「どこで何やってんだい」

《何って、板前エだよ》

「ならいいけど、知らない土地でヘタ前だったりヨタ前やってんじゃないだろね」



「こっちの奴らア、中身がない割にプライドがたけエからやりにくい  
が、ま、その道、心ペエねエー」  
「プライドがスライドでもいいけど、ガムちゃんの盛り付け、いつも違うからさ、解ってくれるシトいるのかい」

「渡る世間は地獄でも、たまーにヤ仏もいる。鬼ばかりじゃねエさな」  
「そこ今何時、いい天気なもんだからさ、これから花見に行こうかって言ってたとこよ」

「こっちか、二時だよ、いいな、花見か、俺はこれから寝る。ま、元気で何よりだ、」

「チョコ坊は神妙にこっくりこっくりと電話に頷く。」

「それを側でグミ助が恨めしそうに見ています。」

「やがて電話も終わり、さて花見と言ったチョコ坊の優しい事。グミ助が畳一枚分のビニールシートと赤いカーペットを抱え、チョコ坊はお酒

とつまみを入れた藤籠を肘にぶら下げ、やってきました桜の下に。

「もう満開で、どこも人ばかり。」

「すいてるとこなんざねエじゃないか」

「二人つきりなんだからどこだっていさね。あ、あの若い連中の横、アスコがいい」

「酒と肴を出して、さて飲みながら隣の話が聞こえます。」

「な、おい、お前結婚するって本当か。まだまだ先の話よ。いつだい。」

「来年。なんだ、来年か、鬼が笑うぞ。」

「あははは。んなこと言ったってさ、準備があるから丁度いいのよ。なん

「だい準備って。お料理、お茶、お花、出来れば着付けなんかをやるのよ。」

「金かかるだろ。いいの、結納金でチヤラだから。」

「この話を聞いていたグミ助が、同じだなとつぶやきますと」

「何が同じなのよ」とチョコ坊が手酌で酒を飲む。

「ゲーシャとさ」

「チョコ坊、ああと頷き飲んだ杯そつと置き、幼い子を誘拐か人身買いみたいにして連れてって、しかも女優

「が韓国人じゃ、まるで日本は悪者じゃないか、何のつもりなんだい、日

「本のゲーシャは皆外人かア、なんだあの映画とか言って啖呵を切っちゃ

「った。」

「はっとしたようにグミ助が、だよなだよな、時が時だけに、火に油ア

「ブツかけた野次馬根性だつって大きな声を出す。」

「いつしか隣の連中も混ざって、あ

「あ言うのを、脅せば何とかなると思

「うだそうだのドンちゃん騒ぎ。」

「桜花、耐えて一年、パツと咲き・・・お後がよろしいようで、あらドッコイ、さてと一服。」

# 日本人学校

## 入学式を終えて

校長 三代 喜政

四月八日（土）、快晴のもと平成一八年度ブダペスト日本人学校の入学式を、滞りなく終えることが出来ました。

本年度は、小学部一二名・中学部三名が新たに入学しました。全校児童生徒数は、七六名という昨年度当初の二倍となりました。

入学式では、式辞に続き稲川大使閣下のご祝辞もいただくことができました。また、中学部代表からの歓迎のことば、新入生代表のことばも新年度のスタートにふさわしい内容でした。

小学部の新入生は、緊張気味でし

たが、最後に上級生からお祝いの花を一人ずつ手渡してもらい、笑顔があふれていました。

いよいよ本校も二年目を迎え、より一層充実した教育活動が求められ立場となりました。昨年度の反省を踏まえ、本年も児童生徒・保護者のニーズに応える学校として、教職員一同全力で取り組む所存です。どうぞ、今後とも皆様方のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



## 門出の言葉

小学部六年 堀川 智生

日本人学校へ入学したばかりの四月。僕はいつも同じことを何度も思っていました。それは、「日本に帰りたい。」という思いです。ぼくは門出にあたって、ここでの生活で、この気持ちが変わらず変化してきたことを話します。

ここに来るまで、ハンガリーに来るなんて大が三つつくほど反対でした。見慣れた家や風景がもう見られなくなるのはつらいからです。そして前の友達と別れるのはもつとつらかったのです。

それでも友達はずぐにできると思っていました。がクラスの人数が二人ということまでは知りませんでした。入学式の日、島戸さんに会って、正直、女子と二人のクラスでうまく

いくかどうか不安になりました。当然最初は口も聞けず、会話は先生の方へ向かっていきました。そんな二人に対して先生方にも気を使っ

て頂き、何ヶ月もかかりましたが、今では島戸さんと自然に話せるようになりました。

そしてドッジボールをしたり、鬼ごっこをしたりしながら、学年の違う人や女子とも友達になれました。

学校の勉強は、前まではほとんど手を挙げることもなかったけれど、ここでは毎時間必ず発言するので、今では発表することに對して自信がついてきたと思います。

また、学校生活が楽しくなったのは行事のおかげでもあります。この学校の行事はとても楽しかったです。

夏期合宿ではカヌーでドナウ川を上りました。日本でもカッター訓練をしましたが、その時は一つのオー

ルを下級生の女子とこぎました。ともきつかったので折り返し地点でポカリスエットを全部飲んでしま

い、あとで苦労しました。へとへとになって家に帰った思い出がありません。夏期合宿のカヌーはカッター訓練と比べたらずいぶん楽でしたが、自分の体力が果たしたのかなとも思いました。

運動会では進行係をやりました。練習はしたけど、つかかかってばかりでうまくできませんでした。それでも、学校の中心の仕事を初めてやってみて、とてもよい経験になりました。短距離走では二位、パン食い競争では一位になりました。

秋の文化祭ではハンガリーダンスをしました。最初は女の子と一緒にダンスなんていやでした。女子と手をつなぐことさえできませんでした。けれど、練習するにつれて手をつなげるようになり、お互いに前を向いて踊れるようになりました。本番の時は衣装のことを気にしていま

した。特に革のブーツが好きでした。自分のセリフは緊張してふるえていたような気がしましたが、踊り始めたら緊張はしなくなりました。何回も練習したので、失敗しない自信がついたのだと思います。本番の踊りは自分でもよくできたなあと思います。

百人一首はクラスで何度も戦いました。最初、島戸さんに勝ったけど、そのあとは負け続けるようになってしまいました。対戦表は島戸さんの勝ちでいっぱいになりました。でもそのおかげで練習する意欲がわきました。本番で島戸さんに勝てたのはそのおかげだと思っています。

ぼくはこの日本人学校の一年で、物事をかなり前向きに考えられるようになった。こんな風に考えられるようになった日本人学校のみんなにぼくはとても感謝しています。ありがとうございます。

そして、お父さん、お母さん。こ

んなぼくを育ててくれてありがとう。お父さん、勉強のが分からない時、教えてくれてありがとう。お母さん、いつもご飯や弁当を作ってくれてありがとう。そして、ハンガリーに連れてきてくれてありがとう。これからもよろしくお願いします。最後に、中学生になったらもっと下級生に頼られるようになりたいです。そして自分と同じように「日本に帰りたい」という気持ちを持っていく子が、そんな気持ちを吹き飛ばせる、よりよい日本人学校を作っていくしたいと思います。



小学部六年 島戸 美月  
六年間がこんなに早いものだとは思ってもいませんでした。お気に入りのピンク色のワンピースを着て入学したあのころが、つい最近のように感じられます。でも、ここに来るまで、とても長い年月が経ち、私の心にとくさんの思い出ができたことは忘れられません。

私は四年のおわりにオランダへ引っ越しました。とてもきれいな国で、外国のすばらしさを知りました。学校では、とても良い友達ばかりで、改めて友達の大切さを学びました。特に夏の林間学校はとも思い出に残っています。助け合いながら進んだオリエンテーリング、夜中の二時まで友達としゃいだ夜のこと、どれも大切な宝物です。

そして今、私はこのブダペスト日本人学校で卒業します。私にとってこの六年生は一番印象的な年でし

た。まず、クラスの人数が二人という  
こと。今までは何十人もの仲間が  
いるクラスだったので、初めはとて  
も戸惑いました。二・三ヶ月は気ま  
ずい日々が続き、学校が嫌になる日  
も何度かありました。でも、今では  
落ち込んでいる時などお互いに励ま  
し合ったり、二人でいろいろな話を  
したりして仲良くやっています。

私は智生に対していつも競争心を  
抱いていました。二人で負けない気  
持ちがぶつかり合い、切磋琢磨して  
大きく成長することができたのだと  
思います。特に百人一首では、私が  
がんばれば智生もがんばる、智生が  
がんばれば私もがんばるというよう  
に、お互い相手のおかげで強くなる  
ことができました。とても感謝して  
います。

それに、この学校では年下の子と  
も接する機会が多く、ドッジボール  
や掃除の時間など、上下関係なく遊  
んだり話したりできるようになりま

した。今までは年下のことを気にも  
とめず、どちらかというに進んでか  
かわろうとは思いませんでしたが、  
今は自然に面倒を見ることができ  
て、接し方などいろいろ勉強になり  
ました。とても視野が広まり、友達  
の輪も広がり、今年が一番の成長だ  
と感じています。これらは自分自身  
のとても良い経験にもなり、よき思  
い出として深く刻まれています。

私がここまで来られたのも、たく  
さんの方々に支えられてきたからで  
す。文化祭や生徒会などでは全校の  
中心になって働いてくださった先輩  
達。ものをやり通す責任感や行動力  
を学ぶことができてとても良い勉強  
になりました。

そして私が生まれた時から今日ま  
でずっと育ててくださったお父さ  
ん、お母さん。たくさん病氣したり  
入院したり、迷惑をかけてごめんな  
さい。お母さんが毎日作ってくれる  
お弁当はとてもおいしかったです。

それに掃除、洗濯、料理など家の家  
事を素早くこなしていく姿はいつも  
尊敬しています。いつも仕事でがん  
ばっているお父さん。困っている時  
などいつも力になってくれてとても  
心強かったです。いつも笑顔で優し  
いお父さんは大好きです。今は迷惑  
ばかりかけているけれども、手伝い  
など一生懸命に親孝行したいです。

私は四月から中学生になります。  
中一と中二が複式学級になるそうな  
のでとても楽しみです。今まで以上  
にがんばり、先輩達とも仲良くし楽  
しい中学校生活を送りたいです。

私は小さい頃からずっとピアノを  
習っています。自分自身もピアノが  
好きだし、小さい頃からずっとが  
んばってきたので今までの苦勞を無  
駄にしたくはありません。将来はき  
っとピアノリストになって、音楽のす  
ばらしさを感じてもらえるような、そ  
んなピアノリストになりたい。

## みどりの丘日本語補習校

一年を振り返って

運営委員長 杉本 康志

「なんでお子さん、小学校に通っていないのに委員長を引き受けたんですか？」この質問を受けるたびに彼らの言葉を思い出す。

「この瞬間に立ち会い、新たな時代を築き上げるためです。」ワールドカップ イタリア大会得点王のゲイリー リネカー、そしてドイツの天才ドリブラー、ピエール リトバルスキーがJリーグ元年における入団会見において発したコメントである。大げさと思われる方も多いと思うがこの瞬間に立ち会える緊張感や喜びに組織の大きさをなんて関係ないと信じている。

みどりの丘日本語補習校が誕生してはや一年。かっこいい志望動機とは裏腹に昨年の今頃は未経験者の集団で果たして学校運営をやっていたのか不安で一杯でした。五里霧中とはまさにこのことかと悶々とする日々が続く。準備委員会から事前の打ち合わせはしたものの、実際に始動すると、想定外の案件が不意を衝いて起きる。「うーん、どうすべきかなー」と腕を組んでうつぶむいてしまふ。と同時にもう一人の自分が「この壁こそが自分を成長させている、トラブルではなくチャンスだ、超ラッキー！」とつぶやいている。こんな事の繰り返しでした。マニユアル化し、結果が最重要視される世の中では失敗は貴重な体験。どんな仕事でも新規プロジェクトを立ち上げるのには通常の倍以上の労力と大胆さが要求される。特に非営利の場合には参加者の熱意によって成否が大きく左右されるだけにコントロールも難

しい。難しい分だけ達成感もやりがいも大きい。あつという間の一年でした。なにはともあれ、この日を無事迎えることができて大変嬉しく思っております。

一年間ここまでやってこられたのはハンガリーにおいて子供たちに国語を学ばせたいという保護者とそれに賛同する方々の情熱だと言う事。寄付金という名の情熱のリレー。寄付者から運営委員会へ、運営委員会から先生へ、先生から子供たちへと熱き思いが伝わっていく。体調が悪くても一回も休まなかった先生方、休みの日に疲れた体に鞭を打って学校まで送る保護者達。そして日本人会の行事に門戸を開いて下さった商工会及び日本人学校の先生方。このような方々によってこの学校は一年間支えられてきました。

新補習校の立ち上げはハンガリーに長期滞在する日本人家族や二重国籍家族が独自の共同社会を作り、日

本とハンガリーの架け橋を構築する最大の契機になったと思います。新たな時代の幕開けです。この学校が日本とハンガリーにおける架け橋代表育成の場として維持していく所存です。

一度動き出したこの流れを止めないように色々準備や対策を練りました。しかし来年、再来年順調に推移するか保証できるものではありません。学校の存続は今もこれからも情熱。

「私よりもっと適当な人がいる。」  
「きつと誰かがやってくれる。」といった甘えは禁物。来年度も今年度以上に協力の際、何卒宜しくお願います。代表、サポーター募集中です。

四月より鈴木新委員長（三洋ハンガリー勤務）を中心にみどりの丘補習校は出発します。鈴木さんは駐在員として激務の中、子供たちに教育の機会を維持すべく、積極的に引き受けて下さいました。出来て間もな

い学校にとって必要な方です。この場を借りてお礼申し上げます。

これから運営に携わった経験を活かし二重国籍のコミュニティ発展に向けた新たなプロジェクトに挑戦し、外から補習校をサポートすることができたらと思っております。みどりの丘補習校運営委員会を代表して皆様のご支援、お礼申し上げます。



## 一年生作文

### 課題は、「思い出の写真について」

一人一人が自分の思い出の写真を持ち合って見せ合い、いつ、何をしている写真なのか、どんな思い出があるのかをインタビューしました。

その時のお家の人の気持ちを書いたり、言ったこと、聞いたことを「」を使って書く練習もしました。

### すずきたいせい

ぼくが一さいのとき、かいたのうちで、かいととちゅうしているしやしんです。

このときのおぼえていません。おあさんは、

「どつてもかわいかった。」  
とおもったそうです。  
おとうさんは、  
「ばばは、このときいなかったから  
わからないよ。」  
といいました。

### ラバイ のりゆき

ぼくが三さいのとき、えりかやと  
もだちと、小さいゆうえんちにいき  
ました。くるまなどにものりました。  
いまはもうなくなってしまうので  
さみしいです。

### もてぎ りく

きよねんの九月に、うんどうかい  
で、ほしゆうこうのみんなと、うん  
どうかいにいったしやしんです。お  
べんとうをいっぱいもっていけるこ  
とがうれしかったです。  
おかあさんは、ぼくがおべんとう

をすこししかたべられなかったから、  
「すぐかなしかった。」  
といっていました。  
かけっこで、二ばんになったから  
すぐうれしかったです。

### アルベルト ジョンボル

ぼくが、ふねにのったときのしや  
しんです。  
せんちようのぼうしをかぶせても  
らえてうれしかったです。

### もちづき みお

きよねんのなつ日本のひまわりば  
たけにいきました。  
いったのは、みおくとままとお  
じいちゃんです。  
いっぱいはちがいました。はちが  
ちくつとさすかとおもって、どきど  
きしました。  
ままが

「ひろいね。」  
といいました。

### まるやまマティア

このしやしんでわたしは、五さい  
でした。  
おかあさんと、ともだちとうみを  
みにいきました。このしやしんは車  
であそんでいるところです。

### なかざわ れお

あきのうんどうかいは一ばんたの  
しいおもいでです。  
おむすびころりんのげきもたのし  
かったです。わたしはおむすびでし  
た。

おおきなかぶのげきをやりました。  
おたがいひつぱってとうとうかぶは  
ぬけました。わたしたちはみんな下  
にころびました。先生もわらいまし  
た。

## 三年生作文

三年生は、一つの宝島の地図を見て、その絵地図を見ながら宝を手に入れるまでのことを想像して、物語を作りました。

たから物をさがしに

茂木 優

のび太は、空から落ちて来た紙を見ました。それは、たから物の地図でした。のび太は、さっそくたから物がさがしに出発しました。でも地図を見ると、色々なきけんがあります。一番近い道を行きたかったけれど、そこにはとらとわにがいて、とらとわにがのび太にはすぐくわかったので、のび太はちがう道に行くことにしました。

のび太は、二番目の近道である、

ライオンといのししとたたつむりがいる道に行くことにしました。

出発して一時間がたちました。そのとき、ライオンがあらわれました。

「ワー、大きなライオンだな。」

のび太はそう言いながら、そおっとそおっとライオンに近づきました。

そのとたん、ライオンが走りながらこつちに向かって来ました。のび太はびつくりしました。そしてのび太は、刀をライオンの顔に投げました。

ライオンは死にました。のび太はライオンの顔から刀をぬき取り、どんどん前へ進みました。

次にいのししが見えてきました。

「あれ、何かへんだな。」

と、のび太が言いました。なんと、いのししは二頭もいました。のび太はおそろおそろいの方へ近づきました。そのとき、のび太はいいアイデアが頭にうかびました。のび太は木の前に立つと、こう言いました。

「いのししたち、こつちだよ。」

するといのししたちは、こつちに向かって来ました。とつ進んで来ます。のび太はいのししいたちがすぐそばまで来た時、「パッ」と右ににげました。そのとたん、「バーン」という音がしました。その二頭のいのししが木にぶつかったのです。のび太が様子を見ると、二頭のいのししは死んでいました。のび太はさらにどんどん行きました。

さすがののび太もつかれました。

「フー。つかれたあ。」

のび太は木の下にすわりこむと、リュックサックから飲み物や食べ物を取り出して、食べました。

次に、地図を取り出して見直しました。よく見ると、「大かたつむりがここにいる。」と地図にかいてあるけれど、まわりを見ても何も見えません。

「あれ、何かおかしいぞ。ここに大かたつむりがいるはずだけど……。」

のび太が草をかきわけると、小さなかたつむりが見えました。「これが大かたつむり!? なんだ、よかった。」

のび太はまたどんどん進みました。とうとうたから物が見つかりました。そしてのび太はこう言いました。「村の人たちに少しずつお金を分けると、ぜったいよろこぶはず。」なんだって五十おく円い上のお金でした。

そして、のび太は同じ道を通って村に帰り、村の人たちに少しずつお金を分けてあげました。

二十年后、村の人たちはみんな金持ちになり、村はもうすっかり町になりました。



## 地図にのっているたからさがし

ラパイ 絵梨香

昔あるところに、「おいしいりんご」と「苦いメロン」という二人の子どもがいました。

二人は水泳のじゅ業の時、プールの深いそこで地図を見つけました。二人は地図が本物だと思ったので、家に帰ってからお母さんに船をかりて、たからさがしの旅に出かけることにしました。

長い間かかって、ようやく二人はたから島に着きました。とう着すると、二人はいろいろな動物の鳴き声を聞いて心配になり、「いったいここはどこだろう。」と思いました。

その時、近くで物音がしたのでそつちを見ると、すぐ横にライオンがいました。二人はあやうくさけびそうになりましたが、ライオンはちようど草のかげにかくれているえ物に注意を払っていて、二人には関心を

示しませんでした。その間に二人は静かに横を通りぬけました。

次に二人はいのししに会いましたが、ちようどのししはお腹いっぱいごはんを食べて、昼ねをしているところでした。二人はいのししを起さないように気をつけて通り過ぎました。

無事にいのししの横をすぎると、目の前に小さな橋があったので、二人はわたりました。ところがその小さな橋をわたった所で、急に道がなくなってしまうので、二人はどうするか話し合いました。

「川を泳いで行こうよ。」  
とりんごが言うと、

「この川にはピラニアがいるかもしれないよ。ぼくはピラニアのえさになんかなりたくないよ。それよりジャングルをつきぬけた方が近いよ。」と、メロンが反対したので、りんごもしぶしぶジャングルを行くことにしました。

ところが、ちょっと進む方向をまちがえたので、道に出た所でワニに出会ってしまいました。

「きゃー。あれっでもこのワニ、じっとゾウばかり見ているよ。」

よだれをたらしたワニは、どうやらゾウを食べたいようです。二人はしめしめと思つてささっと進みました。

すると何と目の前にたから箱がありました。ラッキーなことに、横にかぎまでありました。

「やったー、これでぼくたちは大金持ちだ。」

と、メロンが大喜びで言いました。りんごは、

「わたしが開ける！」

と言つて開けました。でもよく見ると、たからの箱の中は一円玉ばかりがぎっしりつまっていました。

「ええっ!? 一円玉ばかり? これが五百円玉だったらよかったのに。」

「本当にねえ。」

二人はがっかりしましたが、一円玉

ばかりでもこれだけたくさんあったら大金持ちにちがいないと思ひ、すごい力をはっきりして、たから箱を船のある所まで運びました。

ところがなんと、二人が乗つて来た船がなくなつていたので。じたばたしても始まらないので、二人は助けが来るまでそこに住むことになりました。

けつきよくそれから二日後に、助けの船があらわれたので、二人はめでたく家に帰ることができました。

たから物をさがしに

カルドシユ イロナ

ある日、名なしの男の子とオカワリという名前の女の子が、いつものようにごはんと魚を食べました。この魚は面白い魚で、おなかの中に紙が入っています。

ところが、今日のは何だかへんで

す。よく見ると、紙はたから島の地図でした。二人はさっそくたからさがしの旅に出発しました。

たから島に着きました。道を通つて、ライオンの前に出ました。

「わあ、こわそうなライオンだ。」

「本当にこわいよう。」  
と、二人は言いました。ライオンは道をまたいでいたので、二人はおそるおそるライオンのおなかの下を通りました。

でも、ちよつと行つたらいのししのいる場所に来ました。いのししはおなかがいっぱいでした。そしてオカワリが言いました。

「へんないのししだよ。」

「うん、なんかへん。」

もつとよく見ると、いのししはねていました。おそるおそるいのししの前を通りました。

しばらく行くと湖のある場所に来ました。湖の中には大きな魚がいました。

「たたかわなくちゃ。」  
と男の子が言いました。

「そうだね。」

とオカワリも言いました。魚とたたかうのはむずかしいです。魚は二人より強かったのです。魚は、二人を口で「パクッ」と飲みこんでしまいました。

本当は魚はやさしい魚でした。魚は湖を泳いで、向こうの岸で二人を出してあげました。

二人はたから物の場所に行けたから、とつてもうれしかったです。でも、たから物は一円だけでした。二人はそれでもいいと言いました。二人は一円を持って、なかよくこの島でくらししました。



## 四年生作文

### 学校の思い出

中沢 明子 クララ

「夏休みにどこに行きました？」  
と一年生の時、先生にハンガリー語で聞かれました。その時は、ハンガリー語はあんまりできませんでした。「いま何て言ってたかな」

と考えました。わたしは静かに座っていました。他の子ども達は

「わたしはバラトン湖」  
とか言っていました。算数の時間にも先生が何か言ってたけど、それも分かりませんでした。

それからどんどんハンガリー語が分かってきました。もう、ふつうのハンガリー人みたいにハンガリー語ができます。

ハンガリーの小学校で三年生の四月、わたしは、ほ習校に入学しまし

た。最初の日に三年生の漢字テストがありました。でも、わたしはほとんど漢字ができませんでした。今度は日本語を少し忘れてしまっていました。でも、学習しているうちにどんどん分かってきました。その一期に四年生と六年生は、ガイドブックを作りました。わたしと六年生の男の子は、ハンガリーのガイドブックを作りました。宿題に、ガイドブックを終わらせることになりました。わたしはほとんどできませんでした。でも、六年生の男の子はぜんぜんやらなかったもので、かわいそうにしかられませんでした。

九月にハンガリーの学校では四年生になりました。ハンガリーの学校には一クラスに二人先生がいます。そして、午後の先生は新しくなりました。その先生は、すごく悪くてうるさい先生です。みんな大きいです。子どもをなぐったりします。体育の先生も悪い人です。わたしの友

達は、体が不自由じゃないのにそう言われました。

ほ習校も二学期になりました。ここにも新しい先生が来ました。その先生と、いっぱい新しい事をやりました。たとえば点字の事や言葉遊びや作文です。やさしいからすごいいい先生だと思います。

今、二つの学校にいて大変だけども母さんから

「がんばって」  
って言われているから、できるだけがんばります。今までがんばってきたからよかったと思います。



## ブリティッシュスクールの思い出

山内 規世美

「え！どういう意味？」

わたしは、最初何をしたらいいのか分からなくなりました。そうしていたら、他の先生が来てわたしとマイとマテオとエステルを他の教室につれて行きました。

そこはE・S・Lと言って英語の分からない子が少しそこで英語を習う所です。わたしは、この教室に入った時ドキドキしました。その先生はとてもやさしく英語を教えてくださいました。わたしはいつもE・S・Lに行くのが楽しみでした。ある日、その先生がわたしだけつれて行きました。多分、わたしはまだ、発音が良くできなかったからだと思います。先生はわたしにカードをくれました。そのカードを読んだら箱に入れておき読めなかったら箱の外に置いておき

ます。わたしはこうして英語を覚えていきました。

わたしは、最初友達がいませんでした。

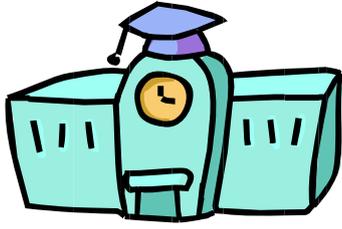
「ああ、早く友達がほしいな。」

と、思っていました。わたしはいつも休み時間におかしを食べているだけでした。まわりの子はみんな友達ができていっしょに遊んでいました。わたしはそれを見て、とてもうらやましかったりさびしかったりしました。そうしてまわりを見てみると、E・S・Lでいっしょにやっている女の子を見つけました。その女の子の名前はマイです。それからわたしとマイはいつもいっしょによく遊びました。食堂で会ったらいっしょにお昼ごはんを食べました。

そんな学校生活の中、一番大変だったのは、授業でした。授業ではむずかしい英語を使いました。でも、図工ではきれいなものも作りました。それからげきもしました。でも、や

っぱり最初の方は分かりませんでした。最後は分かるようになってきました。それからずっと楽しい毎日になりました。

少したってから、わたしは補習校に行くことになりました。最初はいやだったけど、行き始めてると楽しくなってきました。でも、宿題がともむずかしかったです。それにブリティッシュの方の宿題と重なる時もありました。とても大変だったけど楽しかったです。



## 大きらいな学校

伊達 クリスティアンネ

「クリス、おきて。今日は学校に行くよ。」

とお母さんは言いました。わからないな。あの学校？あゝ行きたくない。

「クリス、行くよ！」

とお母さんがまた言いました。

もう、学校にいます。男の子たちと女の子たちは、わたしを見て言いました。

「だれ？この女の子？」

あと、みんなのしせんがわたしにはこわかった。お母さんは言いました。

「だいじょうぶ？」

「うん。」

一年生の教室のドアに行きました。

お母さんは、

「もう行って。だいじょうぶ。」

わたしはこわかった。

「何でわたし？」

と心の中でわたしに聞いた。一年生

の教室に入りました。みんなわたしを見ました。先生が、

「こんにちは。クリスちゃんかい？」

「うん・・・」

わたしは考えていました。

「ちがう。わたしは先生のねこです。」

「クリスちゃんだって。」

まだきんちようをしていました。何でか分かりません。その時、日がキラキラ光っていました。でも、わたしは泣きたかった。

休み時間になりました。わたしはひとりぼっちみたいない気持ちでした。もう、具合まで悪くなりそうでした。女の子が何かを言いました。

「Jatszunk?」（あそぶ？）

わたしは、まだ何も言いませんでした。あとから、

「Jo」（いいよ）

と言って、その子は

「Mi a neved?」（名前は？）

わたしは答えました。

「Chris」(クリス)

「かわいい名前。」

と言われました。

「ありがとうございます。」

遊んだ時、いっぱい子どもがきました。わたしが手を上げた時、女の子にあたってしまいました。

「ごめんなさい。わからなかった。」でも、その子は泣きました。わたしは、クリスちゃんにはばかな人って友達が思ったと思いました。うしろにいたアギが言いました。

「Gyere ide」(いっちにおいで)

わたしは行きました。アギと友達は言いました。ジュージャはいつもこわいって。わたしはごめんねって言ったのに。でも、わたしはうれしかったのです。だって、アギはわたしの友達になりました。

三年生のとき、新しい女の子がきました。わたしは、すぐに分かりました。今日、女の子はドキドキしながらやってきたことを。わたしはそ

こに行つて聞きました。

「Szia Mi a neved?」(名前は?)

「わたしはドーラ」

「わたしはクリス」

ドーラとアギはとてもいい友達になりました。

三年生で新しい先生もきました。今はわたしは五年生です。わたしはうれしいです。でも、お父さんがまだいたときは、もっとうれしかったです。



なぜ絵の苦手な子ができるのか

小松 慶子 (補習校顧問)

「絵が苦手」というのは、小学生どころか幼稚園生くらいからでもありますね。そして中学生くらいでは半分くらい絵を描くのはイヤ、となつてしまいます。いったいなぜこんなに苦手になつてしまうのでしょうか。

それは、周りの大人たちが、子どもが自由に描いていたものに対して不必要に評価をしたり、大人の常識に沿って矯正してしまつたりするためではないでしょうか。大人にしてみればそんなつもりは全くなくても、結果的にそうなつている場合が実は多いものなのです。

「ドナウ通信第 67 号」(2006 年春季号)

発行者 ハンガリー日本人会

発行年月日 2006 年 4 月 15 日

発行代表者 伊藤 和矢

編集責任者 盛田 常夫

表紙デザイン さくらデザイン (Inner Design Bt.)

1021 Budapest, Bogár utca 7

写真・裏表紙デザイン Kármán Studio Bt.

日本人会事務局 連絡先

Magyarországi Japánok Szervezete

TEL/FAX: +(36-1)373-0400

1054 Budapest, Zoltán u.13

P.O.Box: 638 H-1365

E-mail: [nihonjinkai@nihonjinkai.hu](mailto:nihonjinkai@nihonjinkai.hu)

ドナウ通信編集部

TEL/FAX: +(36-1)361-4469

E-mail: [morita@tateyamahu](mailto:morita@tateyamahu)